

# ゆたかな労働と生活の場をめざして

発行 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地  
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ  
だより  
No. 543

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
あさやけ喜平橋食堂	小平市上水南町 2-23-21-5	TEL 042-312-0793
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



クラブの時間に小金井公園の散策に行ってきました

秋を探して

あさやけ第二作業所

## ASAYAKE ART FESTIVAL 2025



11/30(日)～12/4(木) 10:00～18:00  
(初日のみ13:00～, 最終日のみ15:00迄)

入場無料

開催場所: ルネこだいら展示室

西武新宿線 小平駅南口 徒歩3分

会場は駐車場がないため  
公共交通機関をお使い  
ください。



### 廃品回収のお知らせ

10月の廃品回収の回収量は5,010kgでした。内訳は新聞3,300kg、雑誌・ダンボール1,700kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて71,020円でした。

次回は12月20日(土)が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。

■回収品は玄関前にお出しく下さい。回収時間は午前9時から12時30分の予定です。



お花さん  
(サングリーン)

仲間紹介

ひとりひとりが太陽

やってみることが大事



今年の四月からサングリーンに通所しているお花さん。お洒落が好きでピンク色が大好きです。将来はお花屋さんになりたいという夢があります。学生時代から縫製が好きで、自宅でも鍵張りを使用的アームウオーマーやマフラーを作っているそうです。サングリーンでは縫製作業をしています。入所した初めの頃は、ふきの直線縫いがまっすぐ縫えるかどうか緊張してしまい不安で苦手だと感じていたそうです。しかし、どんどん直線縫い作業をすることで自分に自信がつき今では自分から「今日は直線縫いをしたいです。」と職員に声をかけてくれます。「やってみることが大事。」そのことをサングリー

ンにきて初めて思ったことだと教えてくれました。作業以外でもアートルームの時間に中央公園に行き風景を描いたり、吹き絵に参加しています。写真で載せているものもアートルームの時間に制作したものです。キャンパスに色と質感のことなる絵の具を組み合わせています。そこに大好きなピンク色で桜を描いていて、とても気に入っているとのことでした。

これからサングリーンでやってみたいことに「今年行けなかった泊まりの旅行に来年は行きたい」と言っています。いつも前向きに物事に向き合うお花さんを応援していきます。

WAsia 会議と戦跡ツアー参加報告

社会福祉法人ときわ会 ときわ荘管理者 野口 亜紀子



WAsia 会議 2025

2025年9月22日(月)～24(水)にかけて、フィリピンのマニラにおいてWAsia(ワークアビリティ・アジア)会議が6年ぶりに開催されました。私は、きょうされんの国際委員のメンバーとして初めて参加をしてきました。

WAsiaとは、障害を持つアジアの人々の労働と雇用を支援する団体です。現在13か国・地域に50団体が加盟をし、交流と連帯を深めており、毎年アジア各地で会議や総会を開いています。コロナ禍の中断があり、今

回はフィリピンにて、久しぶりの対面での開催となりました。

2日間の会議には300人ほどの参加者があり、今回は「職場におけるインクルージョン、視点を変え機会を創出する」というテーマが中心におかれていました。全体の内容としては、企業で働くという部分にスポットがあてられていたということと、今回の会議のメインホストのひとつが聴覚障害者の大学であったということもあり、障害の重い人たちに響く部分は少なかったかなと思います。フィリピンでの障害者団体の活動は、政府からの公的な援助がなく、その資金的な問題から、いかに企業とコラボレーションをしていくかが重要になっています。分科会では、様々な国の障害者と就労についての事例発表がありました。マカオにおける知的障害のある方々のホテルでの就労システムとプログラムが、私はとても印象に残りました。

3日目は、ケソン市(マニラ近郊)の早期療育センター(KABAHAGIカバハギセンター)に見学に行きました。マイクロバスがやっと通れるような道を抜け、警備員さんのいる門をくぐると立派な2階建ての建物がありました。ここはケソン市の公的機関として位置付けられ、利用の際の費用はかかりません。自閉症児や難聴児への対応など、この5年で利用者は35%も増加しているとのことでした。このセンターに自らアクセスできない家族には、センターの職員が出向き積極的な関わりをすすめ、センターの役割等々、絵などを用いて説明しているとのことでした。そして、以前は受け身だった家族が受け入れてくれるようになったとの報告がありました。



カバハギ療育センターのお母さんたちと…写真にある商品は、お母さんたちが作ったもので、販売しています。

障害のあることもだけでなく、家族への支援もとても重要視していました。センターの職員は、障害のあることもへの療育を行うとともに、その方法についてお母さんに一緒に教えていました。「お母さんはここでの内容をすべて学ぶことができるのですか？」と質問をすると、センターの



メモラーレマニラ…マニラ市街戦で犠牲となった約10万人の市民を追悼するために建てられた慰霊碑

職員は「もちろんです！学んだことを家庭でやってくれています。」と自信も持って答えていました。両親への権利擁護にも力を入れているそうです。

会議のあと翌9月25日（木）、現地在住のHidekoさんのガイドで、マニラの戦跡を仲間とめぐりました。アメリカ人墓地は広大で、真っ白な十字架が一面にならんでいました。日本人の墓地はマニラからは遠く、ラプナ湖を挟んで対岸にあるとのことでした。フィリピンが日米最大で最悪の戦場であったこととその悲惨さは、その残された遺跡とともに、また、Hidekoさんから放たれる一字一句の言葉の中からひしひしと感じました。歴史の事実と直接触れることで、日本人がフィリピンの人々に行ってきた非道の数々に衝撃を受け、これを本当に同じ人間がしたことなのか、と苦しくなるばかりでした。遺跡の看板や資料に書かれている「Japanese」を見ると目をそむけたくなるほどでした。「フィリピンの人々が抱えている苦しみは計り知れない。本当にどう日本人を許すのか、いや許すことのできない心の葛藤。本当に信じられないことをしてきた日本兵。今に生きる私たち日本人は、この苦しみを理解しないといけない」Hidekoさんのこの言葉は深く私の心に残りました。

さて、会議を終えて日常生活に戻ると、目の前の問題をどう解決していこうか、やらなければいけないことがたくさんあり、それらに追われてしまっています。しかし、その一歩先の世界、そしてその先のさらに大きな世界に目を向ける気持ちは常に持ち続けたいと思っています。会議の中で印象に残った言葉があります。「You can't go back and change the beginning but you can start where you are and change the ending.(過去に戻って始まりを変えることはできませんが、今いる場所から始めて結末をかえることはできます)」今の私が果たすべき役割、今の私が未来への責任としてやるべきことがあるのだと、勇気と力をもらえた言葉です。

今回の WAsia 会議への参加にあたり、たくさんの方々にご支援いただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。来年の WAsia 会議は東京で開催されます。

### 競輪補助事業完了のお知らせ

この度、2025年度の競輪の補助を受けて、以下の事業を完了いたしました。本事業の実施により、より安定し円滑な送迎業務を行えるようになります。

事業名	2025年度福祉車両の整備補助事業
事業の内容	福祉車両の整備
補助金額	2,550,000円
実施場所	東京都小平市中島町3-8
完了年月日	2025年10月17日



四十二年も働いたのですね。あつという間でした。

一九八四年四月、あさやけ作業所のミシン班に配属。障害者の方たちと関わったのは、入職前に一年間ボランティアで関わっただけでした。勉強をしたわけでもなく、ほぼ素人状態でした。今、ときわ会で勤務されている方には信じられないことだと思えます。班のメンバーと関わることにミシンを覚えるなど戸惑いもありましたが、メンバーの方が大人で受け入れてもらえました。ミシン班は十か月程でしたが、作業所で働くことを続けていきたいと思えました。そして、開設二年目のあさやけ鷹の台作業所へ。まだまだわからないことや戸惑うことが多く大変でした。少ない職員数で、日常の作業活動・送迎・行事などよくこなしてきたなと思います。作業所の旅行は何回も行っていますが、鷹の台で行った旅行が一番記憶に残っています。若かったたので記憶がしっかりとっているからかな(笑)。

今のような丁寧なかわり方はできなかつたですが、メンバー・ご家族・職員が協力し合って、作業所を作り上げてくれたのではないかと考えています。お金はなかったけれど…。

二〇〇三年十月、あさやけ風の作業所が認可開設され、私は事務職として異動になりました。心地よいシエルク色の建物が優しく受け入れてくれました。

事務と職員の役割も明確で、無認可の鷹の台とは全く違ってました。事務といっても、よくわかっていないので、掃除ばかりして

**あさやけでの四十二年**

ときわ荘  
長堀 晴美

いたように思います。

風は、鷹の台と違って、職員数・メンバーの在籍数も増えました。数年後は、旅行も旅行会社をお願いすることになり、リフト付きの大型バスで行くようになりました。ミニショップも規模が大きくなりました。施設として安定してました。私自身は、鷹の台時代の貧乏癖が抜けませんでしたけど…。

それから、コロナで緊急事態宣言が発令された二〇二〇年、四月に一歩ユニット(一歩とこげら)に管理者として異動になりました。一言でいうと何もできなかった。あつちこちでコロナの発症、作業所閉鎖、保健所への報告、都へPCR検査提出等、コロナコロナで追われる目まぐるしい毎日でした。管理者としては本当に何もできなかった。職員をまとめることもできなかった。しんどかったなあ。

その後、家族(親)の事情もあり、勤務日数を減らしてもらい、管理職も辞し、昨年度からパート勤務になることになりました。田舎に帰って母と暮らしますが、長かったので、母との暮らしに不安はありますが、決めたことなので楽しみを探して生活していこうと思います。

最後に、ときわ会もまだまだ大変な時です。私が言えた義理ではありませんが、コツコツ続けていけば先が見えてくると思います。皆様、無理しませんように、健康には気を付けて過ごしてください。お元気で。



参加して下さったボランティアさんはどの方も長くあさやけ作業所に関わって下さっていて、利用者みなさんのことをとてもよくわかってくださる方たちばかりで、安心してお願いすることができました。毎年駆けつけて下さるみなさんには頭が下がる思いです。

ときわ会の他施設の職員も、それぞれの事業所が忙しい中協力して参加してくれました。以前あさやけ作業所に配属されていた職員は、利用者みなさんのことをとてもよくわかっていて、今現在の担当職員が教わることが山ほどあり、とてもよい学びになりました。チームワークもよく、ときわ会の職員は頼もしいと改めて感じた旅行でした。

あさやけ作業所の職員にとっても、普段なかなか見られない利用者みなさんの様子・表情を見ることができて大変勉強になりました。みなさんとの距離がグーッと近づいた気がします。

### ○仲間みなさんの感想

wさん：二階のお風呂（大浴場）が良かった。窓から外の湖が見えた。お昼のエビがおいしかった。

武井寛彦さん：朝起きて大きなお風呂に職員と入りに行った。

矢島春香さん：イルカショーを観た。空いている席に座った。水しぶきが（かからなかったけど）すごかった。ご飯はどこも全部おいしかった。

長島清美さん：水族館でイワシの回遊ショーをみた。スポットライトが当たって、泡とかもすごくきれいだった。最初あまりお客さんがあまりいなかったけど、子どもたちがたくさん来てにぎやかだった。

工藤健司さん：ご飯がおいしかった。水族館のイルカショーをみた。カラオケが楽しかった。いろいろ歌った。

中村友幸さん：ケーキが好物。売店で買った。よかった。

北島夏音さん：旅行楽しかった。カラオケで嵐の歌を歌った。お花（コキア）きれいだった。イルカショーをみた。

荒井和美さん：カラオケ楽しかった。もう一回行きたいです。ご飯がおいしかった。スーダラ節をうたった。稲取とか富士サファリパークに行きたいな。ホテル三日月。

## 年に一度の大イベント —あさやけ作業所の宿泊旅行のとりくみ—

### ○今年はどうな旅行に

旅行って、お家やグループホームから離れて作業所の仲間と一緒に掛けて、普段できない体験を味わう一大イベントですよね！利用者みなさんは毎年旅行を楽しみにしています。秋に出かける旅行ですが、春や夏頃から「温泉行こうね」と待ち望む声が聞かれています。

今年は茨城の「いこいの村・涸沼」に宿を取り、ひたち海浜公園と大洗アクアワールドに行ってきました。

9月24日、利用者みなさんと、旅行当日応援で入って下さる、あさやけ作業所以外のときわ会職員やボランティアさんにも集まっていただき、旅行の説明会を行いました。下見に行った時の写真をスライドショーで見てもらい、今回行くところの様子を説明しました。そして、応援で入って下さる他施設の職員やボランティアさんと、「よろしくね」と顔合わせをしました。

この時のスライドやお話で、利用者みなさんは旅行の具体的なイメージが持てたのではないのでしょうか。この後、利用者の皆さんの中で旅行の話題がますます多くなったように感じました。

### ○2グループに分けてのとりくみ

あさやけ作業所には49名の利用者の方が通っており、このうち40名の方が今回の旅行に参加されました。以前は全員一度に旅行に行っていました。大人数での移動は時間がかかり、メンバーさんによってペースがまちまちで、中には長く待たされるのが苦手な人もいて、それがトラブルになってしまうこともありました。今までのそういった経験から、数年前から、旅行は2グループに分かれて行くようになりました。



今回も、「スピードグループ」と「のんびりグループ」に分かれて行きました。それぞれのグループでメンバーみなさんに無理のないペースで行くことができました。

### ○ご協力ありがとうございました

このたびの旅行では3人のボランティアさん、9名のあさやけ作業所以外のときわ会職員が応援で旅行に同行して、利用者みなさんの旅行をサポートしてくださいました。あさやけ作業所の職員だけではとても人手が足りず、2回にわたっての旅行はとてもできないところでした。

